



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	はじめに(fulltext)
Author(s)	丹,陽子
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属竹早中学校(55): 1-1
Issue Date	2017-05
URL	http://hdl.handle.net/2309/148568
Publisher	東京学芸大学附属竹早中学校
Rights	

はじめに

学校長 丹 陽子

近年、国立大学附属学校に対する社会の目は大きく変容しつつあります。その中の一つとして「附属学校における教育実践や研究が、公立学校を中心とする種々の学校教育の現場にどれだけ貢献できているのか」という厳しい問いかけが挙げられます。

今回の紀要ではそれぞれの教諭の、日常的教育実践研究の成果をまとめるとともに、「貧困の連鎖解消に関する実践的研究」として、7人の教諭が協働し、教科横断的な実践研究を行い、その成果をまとめています。これは東京学芸大学が平成27年度より取り組んでいる『附属学校と協働した教員養成大学による「経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒」へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト』の一環として、平成27年9月に教材開発並びに授業実践等の依頼があり、それに基づく成果です。

日本の相対的貧困率の高さについては、昨今の大きな問題となっていますが、学校教育の場がこれにどのような形で取り組んで行くのかは、まさに教育の現代的な課題となっています。今回の取り組みはその一つの端緒となり、今後の研究の深化と進展に貢献するものと考えています。

附属学校での教育実践・研究は特別なものであり、広く公立の学校現場で役に立つとは思われないというご指摘もありますが、附属学校という場で展開できた教育実践の要素を解析し、その本質にあるものを明らかにすることにより、様々な教育現場での多様な実践へと繋げ、展開させて行くことが可能ではないかと考える次第です。

その意味で本紀要が、附属学校における日々の地道な教育実践・研究と、新たな試みを展開し、公開していく場として重要であることはいまでもありません。その成果を今後とも発信し続けていきたいと考えています。多くの皆様のご指導、ご意見をいただければ幸いです。